

## 令和6年度第2回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会(会議録)

開催日時	令和6年12月26日(木) 午後3時～午後4時30分
開催場所	四條畷市役所 東別館第二附属棟1階 大会議室
出席者	平井委員長、上村委員、松川委員、藤田委員、浦田委員、奥村委員、上田委員、北田委員、菅委員 (事務局)市民生活部地域振興課
欠席者	谷野委員
傍聴者	なし
次第	1 四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン(案)について 2 その他

(平井委員長)

出席委員数及び会議が成立する旨の報告。

会議の公開の決定。

会議録の公表の決定。

傍聴者に関する報告。

### 1 四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン(案)について

(事務局)

第1回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会及び第2回産業振興検討委員会を経て、修正した四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン策定(案)について説明。

(平井委員長)

ただいま事務局よりご説明をいただきましたが、皆さまへご案内の通り、産業振興ビジョンの見直しを昨年度末に行い、今回具体的な取組みについて記載するアクションプランのご審議をお願いしております。ご質問ご意見ございましたらぜひ自由にお願ひできたらと思いますが、今回初めて出席いただく浦田委員の方から、ご自身の仕事の話を含め、産業、商業などお気づきになった点はありますか。

(浦田委員)

田原台でキッチンカー事業をしており、事業開始から1年半以上が経った。実際に事業を続けてきて地域の人と関わる中で、農家の方と関わるが増えたという印象。販路や販売先などの悩みを聞くと、キッチンカーの運行時に食料を運び、販売できるのではと考えている。個人戦ではなく掛け算で成り立つ時代だと感じており、周りと一緒に取組みつつ、地元・地域を盛り上げるよう動きたいというのが今の目標。それをどういった形で実現するのか、今も含めていろんな参考になるような話やアイデアを得ることができたらと思っている。

(平井委員長)

主に扱っておられる商品はどういうものですか。毎日田原台を回っているのですか。

(浦田委員)

ベーグル、キーマカレー、アレルギー対策のグルテンフリーの焼き菓子を少し出している。メインは田原台、土日は滋賀、京都などで出店している。

(平井委員長)

私の大学の授業でコミュニティビジネス論というのがありますが、そこで学生にビジネスプランを作らせると、毎年必ず誰かキッチンカーの提案があります。必要とされているものを必要としている人に対して販売していくという方法だといつも思っているのですが、浦田委員が活動をされる中で、四條畷に対して何か感じられることはありますか。

(浦田委員)

ご年配の方と関わるが増えたが、皆さん移動手段がない、お店がないからということでキッチンカーに来てくれる。しかし、食だけではなく、ほかにも困っているであろうことが見えたりする時がある。力になれるようでなれない部分にもどかしさがあるので、課題視している。

(平井委員長)

上田委員にも小麦のことを教えていただいていますけれども、販売方法や商品制作など農業分野でも課題になっていることはいつも伺っているので、そういう繋がりが大事だと思います。

その他にも、色々アクションプランには記載されていますが、自分としてこの書き方をこういう風にしてもらわないと分からない、考えてほしいなどあれば、ぜひ色々発言をいただければと思います。

先ほど田原の農業の話がありましたが、奥村委員は1年間を振り返って、仕事上で農業振興として取組まないといけないと感じることはありますか。

(奥村委員)

大きい課題としては、次世代に繋がりをどのように作るのかということ。農業は土日だけでできるものではなく、平日にどれだけ動けるのかということが重要だが、実際には田原から子どもが外に出ていってしまっている。下田原については、ほ場整備事業を行っているため、今後農業がしやすくなり、農業をする方が増えていくと考えている。

また、気候についても課題だと感じている。毎年、夏が暑くなっており、作物を作りにくく、出荷数も減少している。また、作物だけではなく、人間にとってもかなり過酷な環境となっているため、農協としては問題視している。

(平井委員長)

私が担当している学生の論文の1つに「スマート農業」があり、様々な事業者にオンラインインタビューを行いながら書いているようなのですが、四條畷では「技術の活用」などの話題が上ったりしますか。

(奥村委員)

身近な者同士で話すことが多いので、同じ田原地域でも、例えば田原と田原台など、コミュニケーションをとる場が増えていけばそういう話題も出てくると考える。

(平井委員長)

私も本協議会に14年参画していますが、いつも農業に関して、高齢化や人材不足を

課題として聞いています。アクションプランでも、1つの目標としては、農業者数の増加を記載していますが、奥村委員が感じることはありますか。

(奥村委員)

文字で表されると、やはり難しい部分はあると考えている。実際は、動ける人が「残していかないと」という気持ちで動いている。次に繋いでいかないといけない、というのは皆さん感じている。

(平井委員長)

四條畷産業振興ビジョンは、単にお題目を書くのではなく、具体的な内容を結構しっかり記載されてきた歴史を感じるが、どのように実行していくか、どうやって効果を上げていくかというところが、これからの課題になると思います。また、来年度以降、今回策定するアクションプランの内容がきちんと行われているのかということを本協議会で確認していくことになるので、きちんと見極めが必要になると思います。大阪府の菅委員は、今ご担当されているお仕事などを踏まえ、アクションプランをご覧になり、お気づきの点などありますか。

(菅委員)

私は、府内市町村、商工会・商工会議所などの支援機関が集まる大阪府創業支援機関ネットワーク会議の担当をしており、情報提供についてもよく話題に上がる。アクションプランを拝見していると、創業セミナーに続いて今回創業塾も新たに行うと記載されていることから、一般的な創業支援は行っている印象を受ける。ただ、インキュベーション施設<sup>1</sup>を所有していないため、それを所有している市町村との違いという部分と、創業支援で課題となる資金調達を「なわて事業者チャレンジ支援補助金」事業で充実させていると感じている。ただ、補助金の性質上、補助事業終了後は創業者が事業につまずいた際のフォローアップがなかなかできず、また、伴走支援まではできないため、例えば、創業の成功事例の情報発信により創業の機運醸成につなげて、創業者を増やすといった情報発信の強化も1つの手だと考える。

また、創業支援のターゲットを女性、若者などに絞り、それに応じた支援を行っている団体もあるため、これから創業を増やすためには、そういった新たな取り組みも今後考えられる。特に「女性の創業」は、近年増加傾向となっており、地域の潜在的な労働力でもあり、非常にポテンシャルが高いと考える。また、四條畷市と公民連携の包括連携協定を締結している大学もあると聞いているため、大学と連携し、若者の起業を増加させるのも1つの手ではないか。近年、大学も起業支援に力を入れており、就職の選択肢の1つとして「創業」が増加傾向にある。現在も商工会と連携して創業支援を行っていると思うが、そういう面も検討してみてもいいと考える。

(平井委員長)

非常に様々な論点を挙げていただきありがとうございます。私も公的な活動をする上では、情報発信の強化が大事だと感じています。菅委員の業務では、情報発信でどのような取り組みされていますか。

(菅委員)

---

<sup>1</sup> 新しいビジネスを立ち上げようとする起業家やスタートアップ企業を支援するための場所。具体的なサポート内容としては、オフィススペースの提供、専門家による相談などがあげられる。

大阪府のホームページに「Osaka 起業家応援ポータル」を今年の夏に立ち上げ、市町村、金融機関、商工会・商工会議所等から情報を集約して、府内の創業支援機関の支援策一覧を掲載している。

(平井委員長)

藤田委員は創業に関してご自身で経験されたと思いますが、公的な支援について調べることはやはり難しかったですか。

(藤田委員)

大阪府で創業支援のポータルサイトがあると今回初めて知った。自分でも SNS はやっているが、事業内容を拡散し、どう情報発信するのかということが難しく、販路開拓が難しいと感じている。

(平井委員長)

学生は SNS を活発に使っていることもあり、よく話を聞きますが、ほしい情報がきちんと拾えているのかということになると、また違う話になると思っています。

上村委員は、商工会として創業支援を強化していると思いますが、手応えや課題など感じていることはありますか。

(上村委員)

現場ではあると思うが、私の方では特にはない。ただ、コロナ時は創業も数が少なく、厳しい状況だったと感じている。

また、「なわて事業者チャレンジ支援補助金」に関して、市から委託いただいて担当させていただいているが、事業者から「厳しい」という声を聞いている。ただ、審査を緩めることはできないため、そういう部分では難しい部分もあるが、中小企業診断士も常駐しているため、しっかりと聞いていただき、支援を行っていきたい。

(平井委員長)

ハードルが高いということですか。

(事務局)

単に補助金を交付するということではなく、起業する方、事業拡大される方、意欲のある方々を支援するという趣旨で事業を開始しました。申請については、審査が必要ですので、ある程度様々な手続きを踏んでいただく必要がありますが、その過程について上村委員からも発言があったように煩雑だという声が当初は多くありました。ご指摘いただいた部分は、時間を重ねながら、できる限り使いやすいような形で制度を改良してきたという過程があります。最近はそのような意見は減少している状況ですので、円滑に事業を行っている状況だと考えています。

(平井委員長)

「ハードル」について、市、府、商工会などが行ういわゆる公的施策は、アクセスする難しさというハードル、あるのは知っているが要領がわからず書類を作成するのが難しいというハードルなどいくつかの段階で発生します。それをどう解消するかという部分では、創業セミナー・創業塾は意味があると思います。

(上村委員)

商工会の場合、マル経融資<sup>2</sup>を50年ほど行っており、中小企業小規模事業者にとって

---

<sup>2</sup> 商工会議所や商工会の推薦を受け、無担保・無保証で低金利でお金を借りることができる日本政策金融

は、ありがたく使っていただけていると感じている。コロナ時は、コロナ関係の融資が結構出たこともあり、申請は少なかったと感じているが、実際、金融機関を利用されず直接商工会をご利用いただいている方は、比較的多く融資を受けていると聞いている。

(平井委員長)

中小事業者の方々にとって、金融機関よりきちんと支援をしていただき、融資もついてくるという意味では、非常にありがたい制度だと感じていると思います。

今回のアクションプランのポイントが創業支援、事業者数、就農者の増加といった部分になると思いますが、その点について、色々ご意見いただけたらと思います。松川委員は何かご意見ありますか。

(松川委員)

先ほども話があった「なわて事業者チャレンジ支援補助金」について、本当に利用したい事業者は結構いると聞いている。ただ、補助金を利用して、事業を行った後に自分で事業を行う段階になったら、家賃、運用等の経営状況を改めて考えると厳しいので今回は申請しないという話を聞く。この補助金は条件がとてもしっかりと思うが、金額を下げてもう少し利用しやすい補助金制度にした方が使いやすいと感じている。

また、第1回の際にも話したが、申請しても採択されないが、同じ内容で国の補助金を申請したら採択されたというのも聞いている。ただ、補助金はいくらか減額な審査はできないと考えるので、きちんとしたものにするには仕方ないと思うが、事業者の立場に立った補助金制度を作っていただきたいと感じている。創業や店舗の拡大などやろうと思っていてもできないというのは、後々市にとってもマイナスになる恐れがあるので、やり方をもう少し考えた方がいい。

(平井委員長)

採択されたら条件はいいが、採択されるまでのハードルが高いと感じている方が多いのですね。何年か前のことを考えると、補助金制度自体なかったため前に進んだと感じていましたが、運用してみるといろいろな部分で難しさが出てくるのですね。

(松川委員)

国の補助金も色々あるが、申請期間がとても短いため、申請しようとしたときには終了していることも多い。申請できるところは事前にしたいことが決まっていて、その内容にあう補助金を探している組織だけと感じるため、四條畷の組織ではできるところが少ない。大阪市内は、商店街が結構資本を持っているため、活発になる。補助金も取りにくいし、情報も入手しづらいので難しい部分はある。

(菅委員)

私もその部分はすごく課題だと感じている。各自治体で情報発信を行っているため、事業者からすると、わかりにくいのではと感じている。例えば、市・府・国の各制度、補助金制度の全体像がわかるような情報発信が可能だったら事業者にとって使いやすいものになると考える。

また、先ほど話に上がった補助金の募集期間が短いことは私も感じているが、予算がついてから事業を始めているため、どうしても募集期間が1ヶ月間程度しか取れない。

そのため、補助金に関しては情報収集をしていただくほかないかもしれない。

(平井委員長)

私も審査に携わることもあり、募集する方大変さは知っていますが、応募する方にすると準備していないと申請できないのではないかなというのはあるかもしれない。

また、情報発信についても、一括してわかるポータルサイトや、ワンストップセンターなどがあればいいという話もよく聞きますが、簡単な話ではないので難しい部分ではあります。検索したらなんでもわかる時代に、なぜそこまでわかりにくいのかというのはありますが、本当に必要な情報が必要な人にたどり着いているのかというのは、常に検証していく必要があります。

仕事をしている中で、時間を割くのが難しいとは思いますが、事業者が様々なネットワークを持っていることが大事だと感じました。

立場が変わりますけど、上田委員は農業で取組みをされている中で、商業と違う部分もあると思いますが、公的支援について感じることはありますか。

(上田委員)

中古の機械は支援がない。採算を考えたら中古で買わないと厳しいが、聞いた中ではほとんど対象になってない。実際必要なものなので、中古でも買いたいと思っている。なんとかならないかなとは感じている。

(平井委員長)

情報自体は入ってくるのですか。

(上田委員)

商工会に聞くなど色々やっているが、なかなか入手できない。融資だったら中古でも問題ないと言われるが、担保の関係などがあり、非常にハードルが高い。

(平井委員長)

制度の運用方法を見ていく必要がありますね。1年を振り返って、農業分野で四條畷を活発化、活性化させる課題は何か感じられますか。

(上田委員)

今年の小麦は、最初に除草剤を撒くことを怠ったため、収量が少なかった。今年の植え付けは終わり、1月に保育園、幼稚園の子どもたちと<sup>むぎふみ</sup>麦踏を行う。

(平井委員長)

小麦を使った産品や販路はいかがですか。

(上田委員)

天理の製粉屋さんから送ってもらい、売り先は、田原にあるぐーちよきぱんじゃ、交野のパン屋さんの2店舗。天理で製粉をお願いしている人も麦を作っているが、赤カビが発生し半分以上廃棄したと聞いた。今回は2回ほど農薬を撒いたため、今年は問題ないと考えている。

(平井委員長)

それは防ぎようがないのですか。

(上田委員)

奈良県は農薬を撒く基準回数が1回までらしく、大阪は基準がないため2、3回は撒く

ことができる。その点の違いではないかと考えている。

(平井委員長)

有機野菜を追求すると、制約がかかることがあると思います。安心安全、安定的な供給などのバランスの課題もきっとあるのではないのでしょうか。

浦田委員はそのような製品を取り扱っていると思いますが、例えば、季節によっては確保しにくい、売り買いしたい人がいるけど対応できないなど、そういうことは生じていますか。

(浦田委員)

今年は米がすごく高くなった。直接的に連携を取っている商業者と農家が一緒に組めば、ずっと定期的に米を確保できると思うが、私は今年の夏までやってなかった。私が購入することにより、地域の人が購入できなかったら意味がないため、様々なバランスがあって繋がっている食物だということを感じた。今年の秋に農家へ依頼をし、米は1年間置いてもらえるということが決まったが、それ以外は天候などで収量も変わるため難しい。一緒に何かできたら、力になればと考えている。

(平井委員長)

本協議会もそうだと思いますが、ネットワーク作りの場は作っていかないといけな  
いと感じています。

北田委員は1年間を振り返って、物価高を含め消費者の立場としていかがですか。

(北田委員)

私が不思議なのは米の値段について。供出時点の値段は変わっていないと思うが、店舗では通常の倍に近い話を聞く。なぜ米の値段が高騰しているのか知りたい。

(奥村委員)

業者との提携や会社・企業の契約で1年間のお米を押さえられると、一般に出回る米が減ってしまう。私はいつも「お米はない」けど、「ご飯はある」と伝えている。何かというと、店舗に米はないが、横を見るとお弁当売り場にはご飯が余るほどある。コンビニでもおにぎりがないということは絶対ない。これは先ほど言ったように、契約で地域の米を押さえているためであって、企業が米を所有しているということ。普通であればこんなことにはならないが、天候のこともあり、収穫量が少なくなっているというのも価格が高騰している一つの要因。

(上田委員)

米の需要がこれで減っていくことになると非常に困る。

(北田委員)

聞くとところによると、今まで農家へ直接行って買っていたが、今年は売らないと言っているらしい。高く買ってくれる人に売っているのか。

(奥村委員)

それもあると思うが、収穫量が減少しているというのは事実。やはり暑さが原因ではある。今年の春ぐらいに米がないと聞いた方は、その時点で「今年収穫したら自分のところへ少し回して」と農家に頼みに行っている人もいる。知らないような親戚からも言われるが、農家としては言われたら分けてあげようと思う。それで、いつものところに卸すのは少なくなってしまうというのはある。購入者も1本ずつ買ってくれた

らしいが、増えてしまうと1年持つ量が半年、3ヶ月で終わってしまう。12月30日まででは農協は営業しているが、おそらく駆け込みで多くの人が米を買いに来られると思っている。

(平井委員長)

食品流通の仕組みを考えさせられる1年だと感じましたね。

(奥村委員)

運賃が上がっていることも原因の一つ。米自体は生産者から供出する時は変わらないが、その後の運賃がかなり上がっているため、米自体に運賃が上乗せされており、米どころからくる米については高騰していると考えられる。

(平井委員長)

産業振興ビジョンにはそこまで細かく記載していませんが、地産地消の推進は本来、遠くから大量に運んでこなくて済むよう、地元で賄えるものは地元で賄い、リスクを減らすためのものです。

先ほどお話があったように、大きなロットを回して費用を抑えるということは四條畷では難しいと思うので、違う話かもしれませんが、地元産をもう1回見直すという取組みに繋がっていく印象があります。

そのことに限らず、全体を通じて北田委員が他に感じられることはありますか。

(北田委員)

私は消費者として、毎日商店街を一周回っている。最近は高齢者、とりわけ男性の高齢者が増えたイメージがある。なので、世の中が少し変わってきたと感じるが、松川委員はどう感じているか。

(松川委員)

増えている、という言い方は変かもしれない。元々女性の方が長生きと言われていてご主人の方が家にいて、奥さんが買い物している状況だったのが、最近、女性の方が先に体を壊してしまってお主人が買物をするというところは何人かいる。その後、奥さんが亡くなって1人であるという方もいる。結構、そういう人が増えてきて目につきやすくなったと感じている。

(平井委員長)

独居している高齢者の方は、やはり地元の商店街との結びつきが強いということですか。

(松川委員)

どうしても遠くに買い物は行けないため、近くの商店街になってくる。

(北田委員)

道の段差が最近目立っているのか、つまずいている人をよく見る。商店街の道を整理してほしいという気持ちはある。

(平井委員長)

本協議会を開始してから、すでに10年以上経っているので、当然高齢化も進みますから環境も変わります。そういうちょっとした変化を念頭に置いて取組みを進める必要があります。

私の方から、個人的に述べておきたい部分があります。第1回の会議でも触れたオー



プンファクトリーですが、いわゆる工場見学といった内容を記載していることが、このアクションプランの目玉の1つと考えています。オープンファクトリー実施支援を事業者が見た時に、積極的に推進していくと捉えられると思いますが、上村委員は四條畷が行うことに課題あると思いますか。

(上村委員)

今年いくつかの事業所が参加したと聞いているが、四條畷の事業所が結構離れているところが多いので、そういう意味では、市民に見てもらえる状況ではないと個人的には感じている。ただ、オープンファクトリー自体はいい試みだと感じているため、将来的には実現できたらいいと考えている。

(平井委員長)

例えば、回りやすいルートの開発、安全対策に対する支援というものもあると思います。他の地域では、それ自体が産業観光となっていて、インバウンドの方が見に来る例もあると聞いています。展開の仕方は検討できると思います。

(上村委員)

東大阪だったらやりやすいと思う。

(平井委員長)

東大阪は大きいのでやりやすいとは思いますが、アクションプランとしてはゆくゆく製造業で働く人の増加につながることを目標ですから、啓発するという意味非常に有効だと感じています。

来年度以降もアクションプランで進捗管理を行うので、拡大するのであれば、課題出しも必要だと思いました。

また、全体を通して、藤田委員が、1事業者としてビジネスや引継ぎの面から、アクションプランにご意見などありますか。

(藤田委員)

私も「なわて事業者チャレンジ支援補助金」は申請した。中小企業診断士に依頼した分はスムーズに申請できたが、1人で作成した分は書類不備がかなり多く、仕事をしながら手続きの修正をしているので、なかなか大変だった。普段やってないこともあり、時間がすごく取られてしまい、補助金を受け取るのは大変だという印象がある。

また、申請しても実施経過報告書を提出してからでないと補助金を受け取れないため、それまで立て替えをしていたのも苦しかった。中小企業診断士には何回も指導いただが、自宅に戻ってやっていたら間違いが発覚するなどもあり、私がスムーズに物事を書けたらよかったが、なかなかできなかった。サポート体制があったことはありがたかったのだが、1人で仕上げることに時間がかかったという印象。

(平井委員長)

正直、もう少し楽にできないか、と思われましたか。

(藤田委員)

はい。慣れていないこともあり、見積もりをもらいに行った後で不足分が発覚し、また行って、ということが何回もあったためとても時間がかかった。

(平井委員長)

先ほど菅委員からインキュベーターについて話していただきましたが、安く入居でき

る施設というだけではなく、今回の藤田委員が悩んでいたような書類作成などのメンターに近い支援を受けることができるというのが本来の役割ではあるので、その点で考えると、スムーズに進むという部分もあるでしょうか。

(菅委員)

規模が大きい市町村はインキュベーション施設を所有し、そこで様々な支援メニューを展開しているというのが多い印象。ただ、小規模な市町村は、インキュベーション施設を新たに所有すること自体、今の時代は難しいかもしれない。どちらかというところ、コワーキングスペース<sup>3</sup>が増えてきていることから、民間の施設を活用していく方がいいと考える。大阪府内の自治体ではないが、民間のインキュベーション施設や民間のコワーキングスペースをホームページに掲載して活用を促しているところもある。

(平井委員長)

四條畷の創業者を把握しないといけないと感じていますが、コロナ時から含めて在宅で仕事をしつつ、それがビジネスになっていくというようなパターンも結構あると思っています。自宅でネットを使いながら様々な支援を受けられる、というアプローチもあると感じました。

(菅委員)

今はパソコンさえあればどこでも起業できる時代になっており、創業環境が変化している。会社法も改正され、個人が創業すること自体特別なことではなくなっているため、就職の選択肢の1つとなりつつあるし、働いておられない主婦が自分の趣味、特技を活かして起業するなどそういう部分を増やしていくのがいいと感じている。

(松川委員)

以前、大東市が事業支援として枚方信用金庫の紹介で、企業展開や販路拡大を相談させてもらった。その中で、老人ホームを紹介してもらい、老人ホームを経由してお店の商品を直接持ってきて販売していいと言われたことがあった。相談場所があれば少しずつ繋がりができ、情報が入ってくるなど横の繋がりもできてくる。四條畷はそれがないので、できたら面白いと感じている。以前は、四條畷から広げていくという意味も含めて大東に行っていた。もし四條畷に作れば、今日出た意見もある程度解決できるシステムを構築できると感じた。

(平井委員長)

象徴的な施設があればわかりやすいとは思いますが。

(松川委員)

商工会があるから行けばいいと思うが、相談や情報を共有できるような場所があれば面白い。業種、業態関係ないので、農業と商業でさえ架け橋になるものがなく、商工会の会員同士の繋がり程度でやっている。リーダーシップを取ってくれる人がいれば進みやすくなると感じている。

(平井委員長)

時代としては、箱物を作る時代ではないとは思いますが、情報共有の仕組み、人同士

---

<sup>3</sup> 様々なバックグラウンドを持つ人が、一つの空間を共有しながら仕事や学習を行う場所。自分のペースで利用でき、様々な人と交流して情報交換など人脈拡大できる可能性がある。デスク、会議室などが利用でき、Wi-Fi、プリンターなどの設備が備わっている。

が繋がる新たなネットワークが生まれる仕組みなど推進体制の中でどう実現させていくのかということだと感じました。もちろん、商工会も今まで取組んでいると思いますが、それも含めたような広いネットワークを考えていけばいいと感じました。

(松川委員)

今の状態でも十分機能している部分はあるし、商工会と連携している部分もあるのでそれはそれでいいと思うが、今後を考えるともう少し考えなければと思うことはある。

(平井委員長)

新しい知恵を出していくというのが今後の課題だと感じています。

他に気になる点などありますか。

(藤田委員)

松川委員の話を聞いて思い出したが、大阪市で開かれている経営者だけが集まるクラブがあり、紹介で参加させてもらっている。毎月一回 100 人ぐらい集まって、全員と名刺交換をし、各テーブルで商談をしている。回数重ねるごとに顔見知りになり、仕事の紹介をしあうなど、大阪の各地で行われていると聞いている。人と人を繋げるということを目的でやっているようなので、経営者同士が集まって話す機会があれば様々な業種の方と話ができるので、四條畷にそういう場所があればいいなと感じた。

(平井委員長)

どこからその情報を仕入れましたか。

(藤田委員)

友人が起業しており、その紹介で参加させてもらっている。

(平井委員長)

純粹に民間の企業ネットワークということですね。

身近な地域でそういう集まりがあるみたいなことも1つの可能性としては良いものだと思います。同じ市に住んでいても、全員が知り合いというわけではないので、新しい何かと繋がりができるというのは、非常に良いことだと思います。

アクションプランを全部実行したら、自動的にできるというわけではもちろんないと思いますが、様々な自発的な取組みの中で、生まれてくるものもあると思います。

推進体制についても記載していますので、全員で新しい繋がりを作るというような盛り上がりがあれば、何か生まれるかもしれません。

他にはありませんか。

(浦田委員)

普段、仕事をしていたら直接関わる人とはしか関わらないため、その人と1対1でしか会話をしない。普段関わらない方と会える場があるというのは大きいと感じたし、上田委員など農業をされている方と関わりたいという強い気持ちがあっても相談場所がわからないとか、時間の都合はどうか、など考えてしまい足が及んでいなかった。普段から関われる場所があったらと感じた。

(平井委員長)

本協議会も、産業振興ビジョンを議論する場ではありますが、まさにネットワークの場でもあります。来年度以降も定期的に、やっていくことになると思いますので、新しい

ネットワークを作っていただけたらと思います。

もし、お気づきの点があれば、早めにご連絡いただければと思いますが、一旦まとめさせていただきます。本日のテーマは、今、お手元にある資料番号1「四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン(案)」について、昨年度改正した産業振興ビジョンと照らし合せて、妥当かどうか協議会として判断し、決定を行うことです。ここで、皆様にお諮りいたします。

本日の資料として、現在提示されている「四條畷市産業振興ビジョンアクションプラン(案)」について、四條畷市産業振興ビジョン推進協議会として内容を承認させていただくということにしてよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし

(平井委員長)

ありがとうございます。

それでは、今の賛成をもちまして、協議会の決定とさせていただきます。

その他、四條畷市産業振興ビジョンアクションプランに関して、事務局からご説明はありますか。

(事務局)

産業振興ビジョン推進協議会としての今後のスケジュール及び四條畷市産業振興ビジョンアクションプランの進捗管理シートについて説明。

(平井委員長)

ただいま事務局より今後のアクションプランの進捗管理等について説明をいただきましたが、皆さま何かご意見ありますでしょうか。

今後の進捗管理が非常に重要となっており、達成されているか、されていないかで判断されるところもでございます。もしお気づきの点がありましたらお知らせください。

## 2 その他

(事務局)

令和7年度四條畷市産業振興ビジョン推進協議会スケジュールの説明。

(平井委員長)

それでは、本日の会議はこれをもって終了とします。

以上